平成２５年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	東日本大震災後の学校教育の再構成に関する研究

研究代表者

氏名	所属	職名
佐々木幸寿	教育学講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

2011 年 3 月に発生した東日本大震災は，学校や地域社会に大きな被害を与えたが，震災への対応を経て，教育委員会や学校においては，防災教育，道徳教育，地域教育をはじめ，学校教育の捉え直しが進められている。

特に，岩手県教育委員会においては，県教育委員会が中心となって，すべての市町村教育委員会，すべての学校で震災後の学校教育の在り方を，復興教育の視点から見直しを進め，「いわての復興教育」として創造することを提唱している。

本研究では，被災地の教育委員会，学校を訪問し，どのような復興教育が構想，展開されているのかについて情報収集するとともに，特に，特色ある取り組みをしている学校の震災復興教育を取り上げ，東日本大震災が学校教育に与えた影響と学校教育の再構成の在り方について明らかにしようとするものである。

具体的には，岩手県全体の復興教育への取り組みを概観するために，岩手県教育委員会，市町村教育委員会の取り組みについて，また，各学校の取り組みについて広く情報収集を行い，その概要の把握に努めた。その上で，従来から調査対象に設定して継続して震災復興教育の展開を見てきた山田町立山田南小学校の実践について，さらに詳細な検討を進めた。その結果，「いわての復興教育」プログラムでは，復興教育の基本的な考え方として，教育内容において求められる要件，教育内容を見直す視点，さらに学習プロセスの例示等を提示して，市町村教育委員会，各学校の震災復興教育の取り組みを進めていることを確認し，それを受けて，山田南小学校では，「心のサポートを中心として学校運営」（心の復興）を核に据えた震災復興教育の実践を行っている事例を分析，考察した。「感謝の気持ちだけでは心は元気にならない」という児童生徒の実態への洞察を背景にして，①現実を受け入れ，その中で最大限の工夫を体験すること，②同じ目標にむかって取り組む体験をさせること，③いろいろな人と関わる体験をさせることを具体的な方針として掲げ，命の授業，希望と絆の会などの実践を展開させている。こうした実践については，試案として，ポジティブ心理学の視点を参考にした実践の解釈を行った。

被災地の震災復興教育は，それぞれの地域や学校の状況を踏まえて，さまざまな内容で展開されており，また，現在進行中である。本研究はその一部を扱ったものであるが，震災復興教育として公的なプログラムに基づいた具体的な実践の報告として重要な意義を有していると考えている。今後も，震災復興教育の取り組みについての研究を継続したいと考えている。

研究成果発表方法

［発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。］

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに 1 部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

＜口頭発表＞

・日本学校教育学会第 28 回大会（平成 25 年 8 月 4 日）ラウンドテーブル
　「震災復興教育についての一考察－山田南小学校の取り組みの事例－」